

独立行政法人国立高等専門学校機構
明石工業高等専門学校
第18回有識者懇談会

報 告 書

明石高専は、異世界だった。

Step Into a World Beyond Ordinary.

目に見えない「スキル」が手に入る、
想像していなかった未来への入口。。
高校でもない。大学でもない。
ここは、未来のエンジニアたちが集う、
5年間の冒険の世界。



開催日：令和8年3月2日（月）
場 所：明石工業高等専門学校

明石工業高等専門学校第18回有識者懇談会

<次第>

日時：令和8年3月2日（月）13時55分～15時30分

場所：明石工業高等専門学校 本館3階 大会議室

次第：13時30分～（20分）	施設見学（委員自由参加）
13時55分～（5分）	開会 校長挨拶 出席者紹介
14時00分～（35分）	明石高専の学校説明等
14時35分～（40分）	意見交換・質疑応答
15時15分～（10分）	本校への提言・意見等(各委員から)
15時25分～（5分）	校長謝辞
15時30分	閉会

明石高専の学校説明

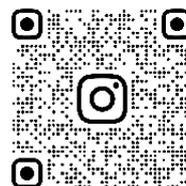
<学校説明資料>

- (1) 明石高専の概要について（担当：校長）
- (2) 教務関係について（担当：副校長・教務主事） 資料1
- (3) 学生関係について（担当：副校長・学生主事） 資料2
- (3) 特色のある教育の取組について
 - ・高専祭展示（万博模型）について（担当：指導教員） . . . 資料3
 - ・ロボコン全国大会出場について（担当：指導教員） . . . 資料4

(参考)

・明石高専 Web サイト学校要覧

・明石高専公式インスタグラム



AKASHIKOSEN

有識者名簿（敬称略）

氏名	所属・役職
もりやま じゅん 森山 潤	兵庫教育大学 学長
やまもと なおき 山本 直樹	明石商工会議所 専務理事
えむら おさむ 江村 治	三菱重工業株式会社 神戸造船所 所長代理 高砂製作所 所長代理
やました かつゆき 山下 勝幸	明石市立大久保中学校校長
たなか のぶひろ 田中 靖浩	神戸新聞社明石総局長
しろたに よしひこ 城谷 吉彦	明石工業高等専門学校後援会 会長



明石高専出席者名簿

氏名	所属・職
土居 信数	校長
梶村 好宏	副校長：教務主事
穂本 浩美	副校長：学生主事／情報メディアセンター長
三好 崇夫	副校長：寮務主事
松塚 直樹	副校長：研究主事／専攻科長
関森 大介	機械工学科長
周山 大慶	電気情報工学科長
武田 字浦	都市システム工学科長／男女共同参画推進室長
工藤 和美	建築学科長
丹下 暖子	学生相談室長
本塚 智貴	テクノセンター長
水野 裕貴	グローバルエデュケーションセンター長
森下 智博	機械工学科（ロボコン担当）
林 礼釦	教養学群（万博模型担当）
前原 義久	事務部長
宮脇 浩和	総務課長
河邊 隆志	学生課長
森本 貴博	総務課専門職員（総務・人事・財務）
柴原 美佳	総務係長
岸元 嘉親	総務係員

議事要旨

(校長 挨拶)

高専は本校も含め、大変な時代を迎えている。皆様から建設的なご意見を頂戴し、新しい明石高専にしていきたい。

本校は設立して63年が経つが、今年度は数十年ぶりに入試において二次募集を行わざるを得なかった。二次募集した人数は10数名に及び予想外であった。

オープンキャンパスや学校説明会等の来場者は前年度を上回っていたことや、今年度に開設した公式インスタグラムが国立高専の中ではトップのフォロワー数となるなど、情報発信にも努めていたことから、志願者は少し増えるのではないかと期待していたが、考えの甘さを痛感した。

志願者が減少した最大の原因としては、高校の授業料無償化が考えられる。しかし、我々側にも現状にあぐらをかいていたところがあるのではないかと、教育の在り方も見直すべきところがあるのではないかと考えている。

学生関係では学生の活躍と、近年重要性が増しているいじめ対策についての取り組み状況を紹介したい。

【意見交換・質疑応答】

(江村委員)

志願者が減っているということは意外であった。大阪の志願者が減っているが、大阪の無償化はもっと前から実施されていたにもかかわらず、今年は減り具合が大きい理由としてはなにか。

(梶村教務主事)

来年度より、高校の授業料無償化が全国に広がることとなり、その認知度が上がったことで、今年度は私学に興味を持つ受験生が増え、進学が増えたのではないかと考えられる。

(江村委員)

大阪以外のところに行かれたということか。

(梶村教務主事)

そこまでは把握していない。

(江村委員)

志願者数を増やすにあたり、これまでのPRと変えていく必要があると思うが、どのような方法を検討されているか。

(梶村教務主事)

学校説明会の内容を変えていく必要がある。他の高校の学校説明会では期待感が大きく、プレゼンのやり方も違うといった声があるため、適切に魅力を伝えられるようなコンテンツや材料を用意し発信していく必要がある。

(江村委員)

明石高専を受験した理由を入学した学生に聞いているか。

(梶村教務主事)

毎年一年生にアンケートを取っている。

(江村委員)

当事者である学生に、どうしたら志願者が増えるかを考えてもらうのも良いのではないか。

(森山座長)

少子化の影響を受けているのは、明石高専のみならず多くの高等教育機関でも同様であり、そうした逆風の中でどうしていくかを考えなければならない。

(山本委員)

私の印象としては、明石高専の学生は優秀で、何もしなくても人は集まると思っていたため、明石高専が定員割れしたということは非常に驚いた。

私学は進学コースを新設したり、塾に行かなくても放課後に勉強のサポートをするなど、授業料無償化に対し、意欲的に取り組んでいる。公立高校等はなかなか同じような取り組みが難しく、その点で私学側に攻め込まれたと感じている。

外国から来ている留学生は、円安の状況下では生活はしやすい面があるものの、就職後の状況は厳しいのではないか。これが留学生の応募等に影響していないか。

就職希望者は、どのような企業（地元企業か、それ以外の地域の企業なのか）に就職しているのか。

(水野グローバルエデュケーションセンター長)

留学生の多くは奨学金や政府支援のもと派遣されており、留学生の人数への影響はほとんどない。私費留学生も一部いるが、それほど影響は受けていない。

(穂本学生主事)

就職を希望する学生の就職先について、学生は地元企業よりも他地域の企業に目を向ける傾向がある。

一方で、地元には優良企業が多数存在しており、地元を大切にする意識を学生に持ってもらうことが重要である。そのため、学内で開催している進路研究セミナー

において、地元企業優先ブースも設定し、学生への認知度を高める工夫をしている。

また、来年度からは低学年の希望者も参加可能とし、早期の段階から地元企業への理解を深める機会にしたいと考えている。

(山下委員)

中学校においても合格難易度が高い明石高専を敬遠する傾向があり、他府県の高専を受験させるなどしていたため、今年度定員が割れていたことに対しては学校内でも驚きの声も聞かれた。

資料を見ると、加印地区については令和6年度から令和7年度にかけて増加し、令和7年度から令和8年度にかけて減少に転じていることがわかるが、この結果についてはどう分析されているのか。

また、各地の学校説明会の参加者は、昨年度に比べて増加しているとのことだったが、参加者の雰囲気や印象に変化が見られたかどうかを伺いたい。

(梶村教務主事)

加印地区の志願者が増加から減少に転じたことについて、各地区での増減の要因分析は十分にできていない。

また、説明会の参加者の雰囲気についても、変化はあまり感じていなかったため、志願者が減少したことには驚いている。今後適切な分析やヒアリング等を行い、その要因を確認していかなければならないと考えている。

(山下委員)

今年度が減少傾向となっていることから、来年度は増加傾向に転じるのではないかと考えている。

また、主観ではあるが、保護者側も安全志向になってきているのではないかと感じる。中学校においても、合格の可能性が高い高校へ志願変更すべきかといった保護者からの相談が年々増加しているように感じており、必要に応じてチャレンジさせるように促していくべきではないかと考えている。

(田中委員)

直近1年間(2025年3月1日～2026年2月末)において、神戸新聞の記事データベースで「明石高専」と検索すると54本の記事が掲載されており、細かなスポーツの成績(高校野球の県大会の成績等)なども含むものの、いわゆる一般記事としても相当数があった。その前年度も約60本掲載されており、毎年50～60本程度は何らかの形で「明石高専」というワードが紙面に載っている状況である。

直近1年間の掲載内容としては、ロボコンベスト4、大屋根リングの模型の紹介など大きく取り上げた記事のほか、梶村教員の文部科学大臣賞の受賞、神戸大学との連携に関する記事等があった。

こうした記事のほとんどが明石版に多く掲載されており、明石周辺では明石高専の記事を目にする機会が多いはずにもかかわらず、志願者数が加印地区及び明石地区ともに大幅に減少していることは、我々としても理解が難しい状況であった。

新聞は志願者だけが見るものではないため、直接的に影響を与えるものではない

が、これだけ地元での露出が多いにもかかわらず、なぜ志願者が減るのかという疑問はある。

また地元志願者が減ることは学校として非常に大きな影響があると思われるので、来年度に向けては、しっかりと原因分析を行ったうえで、V字回復を目指してほしい。

（城谷委員）

定員割れしたというのは、自社の採用担当も驚いていた。二次募集で補充ができたと聞いてほっとしている。二次募集で出願のあった中学校に対して、二次募集での出願理由等をヒアリング等していただき、来年度の募集に繋げてほしい。

各中学校、各地区に対して学校説明会を開催しているが、学習塾へのアプローチはどうしているか。明石高専を受験する生徒の多くが公立の進学校等も視野に入れながら勉強しているため、学習塾に通う生徒も多い。個人的な経験談にはなるが、子どもが通っていた姫路の学習塾では公立高校を推奨しており、塾の合格実績等の事情もあるのか、高専志望と伝えるとあまり良い反応を得られなかった。そういった学習塾に対してのアプローチを伺いたい。

今年度の卒業生数について、多いという印象を受けた。土居校長着任時より、進級の仕組みを見直す方針がとられ、その効果が今年度の卒業生数に表れているのではないと思われる。仕組みを変えたことによって、学生の学力がどのように変化したか教えていただきたい。

授業料が少なくともこの5年は変わっていない。どのように決められているか分からないが、より良い環境で学生が勉強できるのが一番だと考えた際、現在の授業料が妥当であるのかと考えることがある。5年間で実質70万程度しか払っておらず、一般的な大学等と比較すると非常に割安で学ばせてもらっているため、授業料を見直すなどして、充実した学習環境を整えるといったようなことも考えているか。

（梶村教務主事）

入試関係の説明会を学校の先生・塾の先生向けと受験生向けに分けて行っている。加えて、明石高専コースのようなコースを設置している塾については、直接訪問している。しかし、全ての塾を網羅的に訪問できていないため、今後見直すべきかと思う。

進級については、ここ数年進級要件を見直してきた。学年で取るべき単位数が少なくなっていた状況を見直し、適切に進級及び学習が行えるような設定とした。このことについての分析は今後行っていく予定である。

（土居校長）

授業料は我々に決定権はなく、高専機構本部によって定められるものである。来年度からは1年生から3年生までが無償化の対象となるため、付加価値があるのではないか。

（森山座長）

学生募集が一つのテーマとなっているが、これをあまりセンセーショナルにとらえるのは良くない。学生募集には必ず波があり、人口が減少しているため、どこの

学校も波は下がっている状況にある。今回の入試においては、一次募集の際には定員を下回ってしまったものの、最終的には定員割れとはならなかった。そのため、必要以上に明石高専が定員割れしたという話が広がる方が危険であると思う。

定員割れをピンポイントで問題視するのではなく、今回の志願者減少を新しいチャンスと捉え、取り組みを始める、またはこれまでの取り組みを見直すきっかけとすることが重要ではないか考える。

受験倍率の低下というのは、全国で起こっている。しかしその中でも社会全体としては、高専が生む科学技術人材育成に対して非常に追い風となっている。

文部科学省の高等局も理系の人数は保持したまま、文系の人数だけを減らしていくといったことを提言しており、国の将来を担う人材として、科学技術人材は重要視されている。こうした流れにうまく乗れば良いと思うが、そのために何をすべきかを考えていただくのが良いかと思う。

(江村委員)

明石高専から毎年のように当社に入社いただいている。神戸市、明石市、高砂市と工場があり、地元企業だと思っている。また、兵庫県内の拠点以外の工場でも、多数の明石高専出身の社員が活躍している。明石高専から当社に入社するという流れを継続頂ければ有り難い。

志願者の話でいえば、二次募集である程度レベルの高い学生が受験しているなら、それで良いのではないかという考え方もできる。

ものづくりの観点からすると、AIの利用が大きなターニングポイントとなる。現場も機械とAIの組み合わせで、自動化や無人化を図るという流れが加速していくと考えられる。AI教育を取り入れて、明石高専の魅力を高めてほしい。

高校授業料の無償化という話も出たが、特色のある教育をしているので、影響を受けにくいと思う。今後も魅力溢れる学校として発展されることを期待している。

(山本委員)

明石高専に対するイメージをより多くの方に持ってもらうための取り組みが必要となる。すでにInstagramを始められているが、生徒・保護者の双方に向けて明石高専の魅力や楽しい取り組みを積極的に発信してほしい。

明石高専のOBの方には優秀な方も多いので、OBの方と連携したPR活動を検討することも有効ではないか。

(山下委員)

明石高専の卒業生には自らの教えた生徒が何名かいるが、ほぼ100%の生徒が楽しかったという感想を口にしていたため、これまでと変わらずPRを続けてほしいと思う。

中学生の進路も多様化しており、自分のやりたいことができる環境を求めて、通信制を選択する生徒もいる。中学生の進路に多様性があるということ、受け入れる側も把握しておけば、PRにも活かせると思う。EMI教員のような魅力的で社会に通ずる取り組みが行われているため、高専の魅力をアピールし、これからも頑張りたい。

社会全体で理数系科目が難しいというイメージを与えすぎていると感じており、そのイメージが払拭できるよう、理数系科目の楽しさをアピールしていただければ、

チャレンジしてきてくれる生徒も増えるのではないかと思います。

また、卒業後の進路をもっと明確に示すことで、より具体的な目標をもって志望する生徒が増え、魅力ある学校になると思うので引き続き頑張ってください。

(田中委員)

ロボコンの件や大屋根リングの件については、プレスリリースをされているか。

(柴原総務係長)

明石市役所の記者クラブに対してプレスリリースを行っている。

(田中委員)

新聞社では記者数が減っており、プレスリリースを投げ込んででもすぐには取り上げてもらえないことが多く、取材に来てくれるのは地元紙が中心となっている状況がある。発信してもなかなか取り上げられないジレンマが生じるかもしれないが、内容が優れていればマスコミは必ず反応するので、プレスリリースの際には、我々も引き続き努力するが、明石高専としてもマスコミが興味を持つ切り口や内容に知恵を絞り、プレスリリースを行ってほしい。

(城谷委員)

後援会会長という立場で出席したが、日頃は校長はじめ先生方のご尽力により、学生たちが楽しく学校生活を送れていることにお礼を申し上げる。

後援会も学生が充実した学校生活を送れるよう支援していく立場だと考えており、今後も学校側と緊密に協力して活動していきたい。個人的には後援会と学校がもう少し近い関係でも良いのではないかと思います。今後とも後援会の保護者の方とともに学校を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(森山座長)

ここまでのことを踏まえると、今すぐにやるべき事と、3年後に花が開くように準備していく事という二つのフェーズがあるように思う。

今すぐにやるべき事でいえば、たくさんある取組みをどう可視化するかということがあげられる。可視化するとすると、SNS や新聞を活用することも重要であるが、キャンパスの中で学生同士の学びを可視化することも重要である。

具体的には、PBL 授業における成果物等をキャンパス内に展示し、キャンパス全体を学びの博物館のようにするキュレーションと呼ばれる方法がある。

本日キャンパス内を見学した際には、学生の取組みがわかるような成果物がもっとたくさんあっても良いのではないかと感じた。そうした成果物をきっかけに学生たちがディスカッションを行う中で、学科を超えた学びが生まれ、その学びが世の中との関わりの中でプロジェクトを起せば、話題となり SNS や新聞で取り上げられるようになるため、学びを可視化するだけでも可能性が広がる。

数年後をイメージして行う事としては、明石高専が変革しているというメッセージをいかに出していけるかが重要になる。例えば、学科の名称も含めて中学生に訴求できるようなものにするなど、AI のような世の中の流れを先んじてキャッチアップしているというようなイメージを出していくことが重要である。

理系人材の現状として、数学が得意だから理系に進む、数学が苦手だから文系に

進むといったようになってしまっている。しかし、数学が苦手ではあるが、理系に進むという人材を増やさなければ科学技術人材は増えないため、数学や理科の知識や概念がエンジニアリングを通じて世の中を支えている、社会の役に立っているというイノベティブなマインドに気が付くよう促していく必要がある。

明石高専が取り組もうとしている課題は、日本全体の科学技術人材育成においても共通する課題となっており、重要な取り組みであると思う。学習指導要領のキーワードも拾いながら、新しいイメージを作り上げていく必要があると感じる。

【校長謝辞】

非常に示唆に富むご提言をいただき、ありがとうございました。大いに参考にさせていただきますたいと思います。

本日は志願者数減少についてのご質問やご提言が多くあった。志願者数減少について、特色ある取組をしているから影響を受けないのではないかという意見もあったが、私もそうあるべきだと考えていた。

しかし、進学率が一番高い学科（電気情報工学科）の志願者が、二年前に比べて半分になってしまった。高専教育の特徴は、15歳からの早期技術者教育、大学入試を挟まない5年間一貫教育にあるが、そうした高専教育の良さを伝えていくことを怠っていたのではないかと考えている。

また、情報発信はインスタグラム等も大事だが、実際に学生が学び合い成長している姿などの情報を発信することも必要であるご提言いただいた。本日いただいた様々なご提言をよく分析し、今日からまた本校の魅力を発信していきたいと思う。本日はどうもありがとうございました。

以上



独立行政法人国立高等専門学校機構
明石工業高等専門学校
第18回有識者懇談会報告書



独立行政法人国立高等専門学校機構
明石工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Akashi College

〒674-8501 兵庫県明石市魚住町西岡679-3

電話078-946-6017 FAX078-946-6028

Email : soumu.jim@akashi.ac.jp